

[プロシミドン水和剤]

農林水産省登録 第14498号  
 性 状：類白色水和性粉末 63 $\mu$ m以下  
 毒 性：普通物  
 危 険 物：—  
 有効年限：5 年  
 包 装：100g $\times$ 100袋、500g $\times$ 20袋

住化  
**スミレックス®水和剤**

有効成分：プロシミドン……………50.0%  
 補助成分：ドデシル硫酸ナトリウム(PRTR・1種)…1.8%以下



こちらのバーコードをスマートフォン等で読み取るとi-農力サイトに掲載されている本剤の新しい情報がご覧になれます。また、詳しい読み取り方・最新情報については11頁をご覧ください。

[適用と使用方法]

作物名	適用病害名	希釈倍数	107-ℓ当り 使用流量	使用時期*	総使用回数*	
りんご	モニリア病	1000倍	200~ 700 ℓ	90日前	4回	
みかん	灰色かび病	1500~3000倍		開花期 但し、30日前	3日前	3回
もも	灰星病	1000~1500倍			14日前	1回
すもも		1000~2000倍		3回		
おうとう		1000~1500倍				
あんず		1500倍				
びわ	灰色かび病	1000~2000倍		前日		
ばれいしょ	菌核病	1000~1500倍	100~ 300 ℓ	21日前	4回	
だいず		1000~2000倍			2回	
あずき	灰色かび病	1000倍			4回	
らっかせい	汚斑病	1000~2000倍			2回	
いんげんまめ	菌核病 灰色かび病					
きゅうり	つる枯病	1000倍		前日	<b>本 剤：6回</b> プロシミドン：6回 (#1)	
すいか	菌核病	1000~2000倍		7日前	5回	
	つる枯病	1000倍		前日	3回	
メロン	菌核病	2000倍				
かぼちゃ	灰色かび病	1000~2000倍		前日	6回	
トマト					5回	
なす			菌核病・灰色かび病		5回	
ピーマン	黒枯病	1000倍	前日	5回		
	黒枯病	5000倍				
ししとう	黒枯病	5000倍	14日前	4回		
キャベツ	菌核病	2000~3000倍	7日前	5回		
レタス	菌核病 灰色かび病	1000~2000倍	前日			
	灰色腐敗病 灰色かび病 小菌核病	1000倍				
たまねぎ	灰色かび病	※16倍	2.4 ℓ			

作物名	適用病害名	希釈倍数	107-L当り 使用液量	使用時期*	総使用回数*
にんにく	黒腐菌核病	種球重量の 0.4%	—	植付前 種球粉衣 (湿粉衣)	1回
いちご	灰色かび病・菌核病	2000倍	100~ 300ℓ	前日	3回
食用へちま	菌核病			7日前	2回
とうがん					
マンゴー	軸腐病	1000倍	200~ 700ℓ	21日前	3回
にんじん	菌核病	1500倍	100~ 300ℓ	30日前	1回
たばこ		1000~2000倍	—	大土寄時 200mℓ/株 (株元蕾主)	
リアトリス				種茎冷蔵保存前 (30分間種茎浸漬)	
ねぎ	小菌核腐敗病 黒腐菌核病	1000倍	100~ 300ℓ	21日前 (株元散布)	3回
小麦	雪腐大粒菌核病		60~ 150ℓ	75日前	2回
ズッキーニ	菌核病	1000~2000倍	100~ 300ℓ	前日	6回

表中の※無人ヘリコプターによる散布  
#1: 常温煙霧は2回

使用方法: 散布 (にんにく、たばこ、リアトリス、  
ねぎを除く)

適用場所	作物名	適用病害名	10アール当り 使用量	10アール当り 使用液量	使用時期*	総使用回数*
温室、ビニール ハウス等 密閉できる場所	きゅうり	灰色かび病	200g	10ℓ	前日	<b>本剤: 2回</b> プロシドン: 6回 (#1)
	なす		250g	5ℓ		

使用方法: 常温煙霧

## ⚠ 効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。
- 散布液調製後はそのまま放置せずできるだけ速やかに散布する。
- 石灰硫黄合剤、ボルドー液など強アルカリ性薬剤との混用はさける。
- 定植直後又は幼苗、軟弱苗等には薬害を生じるおそれがあるので使用はさける。
- 高温時の散布は薬害を生じるおそれがあるので注意する。
- トマトは薬害を生じやすいので、下記の注意事項を厳守する。
  - 次の条件の場合は使用しない。
    - ・ 生育が一時停止するような低温にさらされることがある栽培をしている場合。
    - ・ 軟弱徒長気味な栽培となっている場合。
    - ・ 微量要素欠乏又はその疑いのある場合。
    - ・ 高温多湿条件の場合。
  - 使用する場合は次の注意を守る。
    - ・ 有機リン剤との混用はさける。

- ・散布液はできるだけ所定範囲内の低濃度（2000倍液）で使用する。
  - ・所定の薬量を厳守し、薬量過剰にならないようにする。
  - ・くり返し使用する場合は散布間隔を十分（14日以上）あける。
- あぶらな科作物（特に、白菜、だいこん、ストック）には薬害を生じるおそれがあるので付近にある場合にはかからないように注意して散布する。
  - 薬剤耐性菌の出現を防ぐため本剤の過度の連用はさけ、なるべく作用性の異なる薬剤と組合せて輪番で使用する。
  - 本剤をキャベツに使用する場合は、薬液がかかった葉に極く微小な薬斑を生じることがあるので、使用濃度を厳守する。
  - ハウス等の常温煙霧用として使用する場合は特に次の事項に注意する。
    - 専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧する。特に常温煙霧装置の選定及び使用にあたっては、病害虫防除所等関係機関の指導を受ける。
    - 作業はできるだけ夕刻行い、作業終了後6時間以上密閉しておく。できれば翌朝までそのままとし、開放後十分換気して入室する。
  - 本剤を無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は次の注意事項を守る。
    - 散布は各散布機種種の散布基準に従って実施する。
    - 散布機種種に適合した散布装置を使用する。
    - 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行う。



## 安全使用上の注意



- 眼に入らないよう注意する。  
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。（刺激性）
  - 皮ふに付着しないよう注意する。  
付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす。（刺激性）
  - 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。  
作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼する。
  - 常温煙霧においては、薬剤処理中はハウス内に入らない。  
また、薬剤処理終了後はハウスを開放し、十分換気した後入室する。
  - 直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管する。
- 12頁記載の注意事項、(1)、(2)、(3)、(4)－Cも合わせてお読み下さい。

## 〔品目特性〕

- ジカルボキシイミド系の殺菌剤です。
- 作用機作は細胞壁の合成阻害と考えられています。
- 予防効果、病斑伸展阻止効果があります。
- ボトリチス属菌、スクレロチニア属菌に効果があります。